

SPS にかける私の想い^{注1}

有吉直子(鹿児島大)

今回第7回 SPS シンポジウムに参加させて頂き、誠にありがとうございました。
冊子に載せて頂けるという事で、発表内容と感想を送らせて頂きました。

【発表内容】

私は、SPS のようなプロジェクトに関わっていきたいと思う自分のような地方大学の学生が、ただ単に就職するために大学に通うのではなく、自分の夢の実現として研究開発の方面に進むためには、どうすればいいのか？また、こういう考えで勉強している学生も地方に存在するという事を含めて自分の想いをご理解して頂きたいと考え、お話したいと思います。では、私が宇宙に興味を持ったきっかけからお話します。

私が小学3年生の時です。友達とクイズをしていました。そのクイズは、「太陽系の惑星の順番は？」という問題でした。その時、私は答えられず「水金地火木土天海冥」と覚えることを教えてもらいました。それが、私が宇宙に興味を持った一番最初です。こんなに小さな事がきっかけでした。その時から、自分の全く知らない世界を人間が開拓してきたことや、それまで学校の勉強では習っていなかった世界や宇宙に興味を持ちました。それまでの私は、普通(?)の女の子っぽく『保育園の先生』とか『お花屋さん』になることが夢だったように思います。ところが、宇宙や科学に興味を持ち出して、科学者だとか、中学生になってからは宇宙飛行士に憧れるようになっていました。そのような経緯を経て私は将来、宇宙開発やエネルギー開発に携わっていきたくて漠然と考えるようになりました。高校に入ってから、夢は持ち続けてはいましたが、受験のために宇宙に関わる勉強は出来ませんでした。ただ、一度だけNASAのサイエンスキャンプに参加し、そしてセンター試験の翌日に九州大学で行われた若田飛行士の講演会に、学校を休んで行きました。日本の場合、アメリカに比べ小さい時から宇宙など科学に関われる機会が少ないと思います。皆様方も同じ考えを持たれる方も多いとは思いますが。古くは鉄腕アトム、銀河鉄道 999、ガンダムなどで最初の興味は生まれます。でも日本はその興味を持続させるのがあまりうまくない教育システムのように感じます。それから、大学で宇宙の勉強が出来ると思っていたのですが、通い始めると、現実にぶつかりました。なかなか自分の将来と宇宙が結びついてくれないのです。

その頃から、どうやったら宇宙開発に携わって行けるのか、自分に何が出来るのか？どうすれば出来るのかを試行錯誤していました。そのような中、平成15年の宇宙科学研究所の一般公開に参加する機会があり、そこで、佐々木先生、高野先生、田中先生にお会いし、SPSに出会いました。宇宙開発、エネルギー開発に携わりたいと感じていた私にとって、SPSは正に私の心をつかんでしまいました。

鹿児島大学の物理科学科には物理コースと宇宙コースがあります。私は現在、宇宙コースに属していますが、鹿児島にも私と同じように宇宙に興味を持ち、将来その方面に行きたいと感じている学生は多くいます。物理に限らず、工学部の学生も宇宙開発に興味があると思います。例え

^{注1} 第7回 SPS シンポジウム、九州工業大学にて2004年9月16、17日開催

ばロケットの打ち上げをしたいとか、衛星を開発したいと考えている学生も多いのではないのでしょうか。特に工学部の学生なら理学部の学生よりも現実的に社会や生活に宇宙を応用出来ると感じていると思います。ただ、地方大学の一学生として感じることは、みんな入学当時は夢に希望を抱いているのですが、2年3年となっていくうちにだんだんそういう情熱や目的を失う学生が多いようです。サークルやバイトに逃げてしまうのかもしれませんが。私の場合も、よく自分の無能さにめいてしまい、この道は自分じゃ非力ではないだろうか、なにも出来ない・・・そんな風を感じることもあります。ただ、私はたまたま、自分の無鉄砲さから、昨年宇宙研の一般公開に参加してSPSに出会う事ができましたし、今回このような発言の場を頂きました。しかし、今の学生はせっかく能力があっても自分の夢や目的に出会うこともなく、情熱を萎ませているケースが多いと思います。ですから私はもっと早い段階からアプローチして、学生がSPSのような研究プロジェクトにもっともっと大きな興味をもって行動出来るようになればいいなと、考えております。

SPSは私にとって、科学の新しい世界を夢見させてくれる存在です。世界の隅々に電気が、エネルギーが行き渡る。安価な電力を供給出来るようになる。アフリカや砂漠地帯に容易にエネルギーを伝送出来るならそこでの研究がもっともっと発展して科学進歩の相乗効果につながる。宇宙エレベーターにも応用出来るんじゃない？ そうしたらみんな簡単に宇宙に行ける時代が来る！ 空飛ぶ車も夢じゃない・・・車なんて必要ない、人が空を飛べるようになる!! リフターやナノチューブを使った宇宙エレベーター、そんな世界をSPSの延長線上に感じます。もちろん、私が生きている間に実現出来るかどうか分かりませんが、遠い将来、それが50年後100年後もっともっと遠い将来かもしれません。しかしどんなに遠い将来でも、それが実現するのなら、その道を切り開くことが出来るのなら、今その始めの一步に携わりたい、同じ人生ならそこに生きたいと感じています。

今回皆様方の先生や先輩方の研究発表を聞かせて頂き、あまりのギャップにびっくりしました。もう少し早い段階でSPSに出会っていたらなあと思いました。

地方の大学にも同じような気持ちを持つ学生が多いと感じます。ところが、鹿児島大学において一般学生に話をしてもなかなかSPSに興味を持っている学生に出会うことがありません。SPSを支えるようなNPO的の学生組織ができればもっと広くSPSの理解を学生や社会に広めることができ、SPSの発展が加速するのではないかと（この会場にいる一番若輩であろう自分の身の程も知らずに）今、考えています。

私は大学に入って、いろいろな事に気づくことができました。高校までの学問が単なる受験勉強になっていて、実社会に結びついていないこと、歴史も経済も、実社会に活かすために今まで学んでいた事に気づきました。自分自身が日本国民であり、自分達一人一人が日本を作っていく事に気づきました。選挙において一票の重要さにも気づくことができました。気づくのが本当に遅かったと思っていますが、これから社会の中の自分自身のあり方を考え、勉強し直していうと思います。

先ほど、SPSの将来の自分の勝手な想像をお話しましたが、なぜSPSなのか、歴史社会や経済、政治等を含めしっかり考えを持ち、そして日本を担えるような人間になりたいと思います。私がSPSのどの部分を受け持つことが出来るかまだ分かりませんが、皆様方にお力を借りながら、SPSの発展する周辺のものも含めて微力ながらSPSに関わっていきたいと思っています。

【感想】

改めて自分の書いた原稿を読み直すと、なんて「地方」という言葉が多いことでしょう。しかし鹿児島が嫌いなのではありません。私は福岡出身ですが、福岡よりもずっと、鹿児島が大好きです。大学に入ってから、将来どう生きていくかについて模索し続けています。宇宙開発にどうやって関わるか……。そのような中、地方にいる自分とレベルの高い大学生との違い・差にプレッシャーや不安や無力感を感じずには入られない日が続きました。日本のために何かしたい、でもその力が自分には無い。そのような不安を消すためか、チャンスを掴むためか、やりたいことを見つけるためか…どれも私の心を焦らせるものでしたが、私はいろいろな講演会や活動に参加しました。そうして行くうちに、歴史や教育や考え方がいかに大事なものを痛感するようになりました。日本人であることを意識するようになりましたし、私達一人一人が日本を作っていく事に気がつきました。心の成長がいかに大事かを感じました。

鹿児島には、関ヶ原の合戦の様子を描いた「妙円寺参り」と言うものがあります。重い鎧や衣装を着け小さな子供から大人まで、20km程半日かけて歩きます。今年は女武者の役をさせて頂きました。鹿児島で私は日本人の心・気質に触れ、気づかされました。そういうことを通して、やっと私は無力感や不安に打ち勝つことが出来ました。力が無いならやるしかない、一つ一つこなして行くしかない、悩んでも焦ってもしょうがないと気持ちが晴れました。将来、SPS にどのように関わって行くかまだ見えていませんが、私らしく、そして一日本人として生きていきたいと感じました。是非、みなさま鹿児島にいらして下さい。そして一緒に歩きましょう!!